

島議第105号

平成30年10月25日

島田市長 染谷 絹代 様

島田市議会議長 大石 節雄



島田市新庁舎整備に関する提言について

島田市議会において、島田市新庁舎建設に向けて別紙のとおり提言書を取りまとめたので提出する。



島田市長 染谷絹代 様

島田市新庁舎整備に関する提言書

平成30年10月

島田市議会



I. 提言の目的・考え方

昭和 37 年に建築された市役所本庁舎は、経年による老朽化、機能の劣化、二度の合併による市域や行政需要の拡大に伴う床面積の不足、災害対策等の基幹的機能が分散配置されている等の課題が顕在化し、今後の社会経済情勢の変化、刻々と変化する住民ニーズに的確に対応し、長く庁舎として活用し続けることは困難な状況である。

また、現在新病院建設事業などの主要プロジェクトを進め、かつ少子高齢化に対応した福祉施策の充実を図るための財政負担が一掃重みを増しており、すでに除却した旧市民会館の機能の再生を求める市民や文化関係団体の声があるものの、当分の間、当市の財政的な制約は強まっていく傾向であり、新たな施設整備については慎重な判断が求められる。

これらの課題に対応し、これまで当市の中心にあって、行政運営、文化振興の拠点となっていた市役所周辺及び新庁舎の今後の整備方針の策定に当たっては、合併特例事業債の活用期限も考慮に入れながら全体的かつ総合的な見地からの検討が求められている状況である。

このような状況の中、今後の事業化に向けた基本計画や基本設計等の作成においてその指針となる島田市役所周辺整備基本構想（案）が策定された。

現庁舎の抱える課題の解決を図るためには、新庁舎の建設は不可欠であり、引き続き新庁舎の建設に向けた検討を進めることは大変重要なことである。

そこで、島田市議会では、新庁舎整備に関し、5つの視点に基づく考え方を提起し、今後作成される「島田市新庁舎整備基本計画」や今後の新庁舎の検討への反映を求め、提言を行う。

II. 提言事項

- 1 新庁舎は、世代を問わず多くの市民が訪れやすく相互の交流が生まれる場となるよう計画すべきである。
- 2 新庁舎は、災害発生時には対応拠点となり、かつ減災に十分配慮した空間と機能を確保し、平時には市民が交流するエリアとなるなど有効活用を考慮し計画すべきである。
- 3 新庁舎は、市民にとって利用しやすく分かりやすい窓口配置と、職員にとって働きやすい仕事効率を考慮に入れた部署配置で、かつ庁舎内はICT環境と活動スペースの充実が望ましい。さらに構造については修正やメンテナンスがしやすく、省エネルギーへの取り組みも考慮しコストパフォーマンスに優れたつくりとなる、実用性を重視した施設整備計画とするべきである。
- 4 将来の市勢を考慮し、良好な財政バランスに配慮した施設整備を計画すべきである。そのために当市として自主財源増の施策を進める努力、官民連携の導入による財政負担の軽減の検討を行うことなどをはじめとする諸検討事項について、十分な意見交換や議論を深めた後に進めるべきである。
- 5 二元代表制の一翼を担う議会が十分活動でき、広く市民が傍聴しやすい議場を有するなど、議会活動に関わる施設整備は議会運営に支障が出ないよう議会との意見交換をもって進めるべきである。